



発行元：ピーエムシー株式会社
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺 1-35-4
TEL:0256-47-3686 FAX:0256-35-0158
<https://www.pmc-jinzai.com/>

■ 過去のニュースレターはHPに掲載
→ダウンロードも可能です。

介護職の人材育成・ 人材マネジメントのヒントを情報発信！

～介護職員及び組織に対する育成をトータルサポート～

マインドセットって何だろう

こんにちは、ピーエムシー株式会社の斎藤洋です。

近年、職員育成や組織づくりの分野で「マインドセット」という言葉がよく使われるようになりました。

「マインドセット」とは、物事の捉え方や考え方のクセ、思考の枠組みのことを指します。

同じ出来事が起きても、人によって受け止め方が違うのはこのマインドセットの違いによるものです。

そして、この捉え方の違いは、その後の行動や周囲との関わり方にも大きな影響を与えます。

今回はこの「マインドセット」の重要性についてお伝えしたいと思います。

ケアの質は職員のマインドセットで左右される

介護の仕事（特にご利用者対応）はご利用者一人ひとりの状態や生活歴、価値観やおかれている環境をふまえて対応を考える必要があります。

ご利用者の言動をどう解釈するかによってケアの質が大きく左右されます。言動の解釈は職員の持っているマインドセットによって前向きなものとなることもあれば、そうでない場合もあります。

例えば、対応の難しい利用者に対して「この方は何に困っているのだろう」と視点を変えて考え、ケアに反映できるかどうかで、ご利用者のQOLは大きく変わります。

変化できるチームと変化できないチームの違い

現在介護現場には多様な背景や考え方を持った職員がひとつのチームで働いています。

例えば「どうせ何をやっても変わらない」「新人にはまだ無理だ」「このご利用者は認知症だから仕方ない」といった考え方は、改善の可能性を狭めてしまいます。一方で、「別の方法を試してみよう」「工夫すればでき

るかもしれない」といった捉え方は、課題に向き合う姿勢を生み出します。

どちらが良いかという単純な話ではありませんが、後者のような姿勢がある職場では問題が起きても解決に向けた話し合いが生まれやすくなります。

マネジメントで職員の前向きな捉え方を育てよう

ここで重要になるのが職員に対するリーダーの関わり方です。職員のマインドセットは個人の性格だけで決まるものではなく、職場の雰囲気や日々の関わりの中で形づくられていきます。

例えば、失敗が起きたときに責任追及ばかりが行われる職場では、新しい挑戦を避ける空気が生まれやすくなります。

一方で、「今回の経験から何を学べるだろうか」と振り返る機会がある職場では、課題を前向きに捉える姿勢が育ちます。また、小さな成功や工夫を言葉にして承認することも、職員の前向きな捉え方を支える大切な関わりです。

介護の質は、技術や知識だけで決まるものではありません。職員がどのような視点で利用者や仕事を捉えるのか、その土台となるマインドセットが日々のケアに影響します。

だからこそリーダーは、職員一人ひとりの考え方に目を向けながら、課題を前向きに捉えられる職場づくりを意識していくことが必要なのです。



主任研修講師 斎藤 のつぶやき

最近「苗字」にちょっと興味があります。九州から新潟に越してきて、地域によって苗字にかなり偏りがあることを実感しました。スポーツ選手などで「日高」「得能」「黒木」といった苗字を見ると、つい出身地を予想して検索してしまい、ひとりで喜んでしまいます。もし皆さんの身近にも「この苗字はこの地域」というものがあれば、ぜひ教えてください。ちょっと怪しい趣味ですが(笑)。